

# サバ類の資源生態研究

(我が国周辺漁業資源調査)

(予算区分 受託 研究期間 平成7年度～)

担当：資源海洋科 中村健太郎

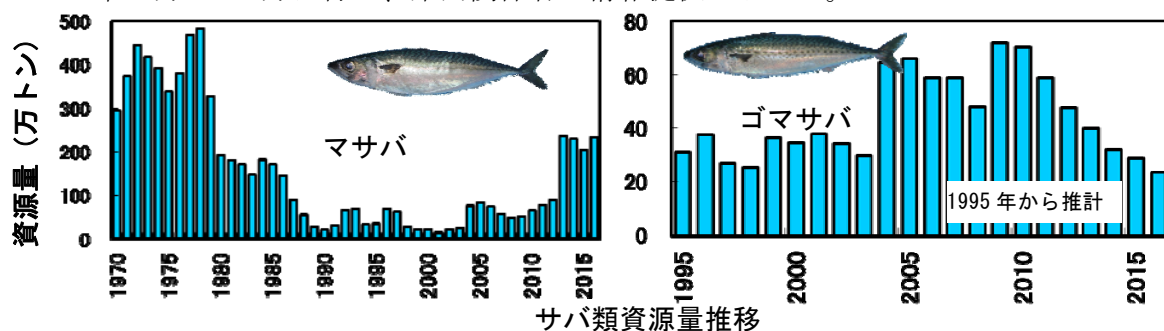
## 【研究の背景とねらい】

国連海洋法条約批准に伴い、我が国周辺で漁獲対象となる広域回遊魚については、漁業資源を持続的に活用することが求められています。そのため、関係機関が連携して資源動向を把握するために必要なデータを収集し、生物学的許容漁獲量の算定を行っています。マサバ、ゴマサバについても水揚量調査、体長測定、年齢査定、標本船調査等を定期的実施し、(国研)水産研究・教育機構と連携して資源評価と長期漁況予測を行っています。

## 【これまでに得られた成果】

(平成29年度の状況)

- マサバ太平洋系群の資源量は1970年代には400万トン前後で推移していましたが、1980年代から減少し、2001年に15万トンに減少しました。その後2005年頃から増加傾向にあり、2016年の資源量は235万トンと推定されました。
- 資源水準の算出根拠となる親魚量について2015年は49万トンと、Blimit\*45万トンを上回ったことから、資源水準は中位に回復しました。2016年は72万トンで、さらに増加しましたが、親魚量を維持していくため今後も資源管理を行っていく必要があります。  
\* Blimit: この数字を下回ると資源回復措置が必要となる。
- ゴマサバ太平洋系群の資源量は、1995年から2003年頃まで30万トン前後で推移していましたが、2004年以降増加し、2009年には70万トン以上の高い水準となりました。しかし、2011年以降減少傾向となり、2016年の資源量は23万トンと推定されました。
- 資源水準の算出根拠となる親魚量についても2016年は13万トンと、減少傾向が続いており、資源水準は中位と評価されました (Blimit: 3.8万トン)。
- 水産技術研究所では、伊豆諸島海域におけるサバ類の来遊量や漁場等の長期漁況予測を2017年7月と12月に行い、県内関係者へ情報提供しました。



## 【期待される効果】

- 収集した各種データから資源動向を把握することで、資源管理が適切に行われ、資源の持続的利用が図られます。
- 漁況予測を関係者へ提供することで、漁業者の経営の安定が図られます。

## 【今後の計画】

- 減少傾向にあるゴマサバを主に、サバ類の資源動向、漁況を把握していきます。
- 標本船調査、海況データ等を基に、サバ漁業の短期漁況予測手法について検討します。

(作成 平成30年4月)